

はねっと 4

仙台市民活動サポートセンター通信 ぱれっと

“ぱれっと”には、仙台市民活動サポートセンター(サボセン)にいろいろの人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



一歩踏み出す気持ち芽生える「ワクワクビト」

街を見守る熱血ランナー 各地の仲間と今日も行く

パトランJAPAN 認定パトランナー

ちば ひであき
千葉 英晃さん(46)

帰宅後の夜間ランニングが趣味の千葉さん。ただ走るのではありません。犯罪や事故などの早期発見と防犯を目的に、地域を見守りながらパトロールする「パトラン」として、自身が住む青葉区愛子周辺を走っています。2018年、新聞でパトランの活動を知り、「これだ!」とすぐに登録。宮城県第1号の認定ランナーになりました。街灯のない真っ暗な道や、陥没した道など、街にある危険に対し「自分にも何かできないか」と思ってきたからです。特に、夜間スマホを見ながら1人で帰る若者を見ると、子を持つ父親として「事件や事故に巻き込まれず帰ってほしい」と思ってきました。活動を始めてからは、街灯切れや道路の陥没をアプリで市に報告したり、交通事故に遭遇した際に通報の手助けをしたりしています。目立つユニフォームや腕章も「誰かを助けたい時に安心してもらえる」と気に入っています。

「モヤモヤが晴れていく、走る時間が好き」と話す千葉さん。2020年、聖火ランナーに選ばれ楽しみにしていた東京オリンピックが延期になった時も、心を晴らしてくれたのは走ることでした。聖火を携え利府町を走るはずだった日、いてもたってもいられず利府町に赴き、1人ごみ拾いランニングを実施。「閉鎖的なコロナ禍でも、街をきれいに保つことで犯罪の抑止になれば」と、心は前向きになっていました。無事、聖火ランナーを果たした後も縁を感じ、自宅周辺のパトランに加え、利府町でのごみ拾いランニングを毎年継続。そんな千葉さんを見て、2024年6月、県内



でも増えたパトラン仲間や、全国のパトラン仲間、利府町民などが加わり、約130名でごみ拾いランニングをしました。「志を同じくする仲間がいると嬉しい。この街に見守る目が多くあることを示し、犯罪を起こさせない」と、今日もパトランに心を燃やします。

パトラン JAPAN

街を走ってパトロールするパトランを通じて、地域に見守りの目をつくり、誰もが暮らしやすいまちづくりに寄与しています。2013年1月福岡県宗像市からスタートし、全国に広がりました。



▲HP



▲2024年6月に利府町で実施したごみ拾いランニングの様子



市民活動団体を紹介「市民活動突撃レポート！」

大学生が開く、現代の「寺子屋」。地域のつながりと居場所を育む

「てらいく」は、月2回、若林区の児童館でペン習字や宿題のサポート、スポーツ交流などを通じて、子どもの居場所づくりをしている学生ボランティア団体です。

代表の奥平悠大さんの地元は、仙南の蔵王町で、地域の人に見守られて育ちました。「恩返ししたい。自分も地域に貢献できる人になりたい」との思いをずっと抱いてきました。大学生になり、小学3年生から習っていた書道のスキルを生かして活動することを考え始めます。はじめは1人でやろうかと思っていたのですが、大学の同級生で幼馴染でもある五十嵐大地さんに打ち明けたところ、五十嵐さんは「手伝うよ」と即応し、副代表を引き受けてくれました。他にも共感してくれた同じ大学の仲間と10人弱で始めた活動は、現在では複数の大学から48人が参加するまでになりました。

活動当初は、初めて会うお兄さんお姉さんに緊張していた様子の子どもたちも、徐々に打ち解けてきて、今はすぐじゃれつくように。商店街など地域の人たちも「てらいく」メンバーの顔を覚えて声をかけてくれるなど、「地域の温かさを感じる」と2人は声を揃えます。てらいくと、子どもたちと、地域との輪を大事にして、これからも活動を続けていきます。



▲2024年11月に開催した「～大学生と小学生による筆の共演～みんなで大パフォーマンス!!!」の様子

てらいく

2023年6月設立、9月活動開始。学校や塾ではない、地域にあって気軽に通える「寺子屋+教育」から、呼びやすく、小さな子どもも読めるようにひらがなで「てらいく」としました。児童館での通常の活動以外に、地域のイベントをお手伝いしたり、団体主催でイベントを開いたりもしています。



▲Instagram @teraiku2023

問い合わせ Mail teraiku12@gmail.com



活動を支える、人、モノ、こと「募集して☑」

視覚障がい児のための、触って楽しめる絵本を一緒に作ってみませんか？

子どもの思考力や想像力を育み、世界を広げてくれる絵本。世の中に絵本は多くありますが、視覚障がい児のための絵本は多くはありません。触察絵本グループ「わか草」は、視覚障がい児が触って楽しめる絵本を46年前から手作りしている団体です。様々な手触りの材料を組み合わせ、中に綿などを入れて立体的に作る絵本には、点字も添えられています。1冊完成させるのに1～2年ほどかかりますが、メンバーは「根気のいる作業だけど、子どもたちの笑顔のために作っている」と話します。絵本が好きで、手作業に興味のある人は、活動に参加してみませんか？



▲登場キャラクターそれぞれに違う手触りの素材を使用

触察絵本グループ「わか草」

活動日：毎月第1・第3木曜 10時～15時
活動場所：生涯学習支援センター ※要問合せ
TEL：022-725-4420 (川島)

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 4月9日(水)、23日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>

[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>

「ばれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。



ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行

仙台市市民活動サポートセンター

(指定管理者：特定非営利活動法人
せんだいみやぎNPOセンター)

発行日 2025年4月1日

デザイン PEACE Inc.

[X(エックス)]

@SCSC4CA

[YouTube]

サポセンちゃんねる

